

中学高等学校におけるSDGsをテーマとした課題研究の実践に関する一考察 —ESD for 2030を念頭に—

秋田 こまち* (〇〇中等教育学校)・伊達 正夢 (〇〇大学・院生)

I 目的と背景

2019年2月ユネスコ執行委員会は、グローバル・アクション・プログラム(GAP)の後継フレームワークとしてEducation for Sustainable Development : Toward Achieving the SDGs (ESD for 2030)(SDGsの達成にむけた持続可能な開発のための教育 ESD for 2030)の草案を提示した。いま、持続可能な開発目標であるSDGsに、教育的手法としてのESDがどう貢献できるのかが問われている。発表者の所属する学校では、課題研究の統一テーマをSDGsにおき、ESDで目指す資質能力を目標としながら、課題研究を実践してきた。本発表では…

II 研究の方法

本研究では、生徒の課題研究についての取組について取組期間中3回にわたってフィードバックするとともに、SDGsをテーマとする課題研究を実践することによる成果を確認するために、教員および生徒を対象に、5件法による質問紙調査を行った…

図表サンプル	中等部	高等部
地域の持続可能性にかかわる課題を考える研究を行うことができた。	4.25	3.50
研究にグローバルな視点を取り入れることができた。	3.79	4.50

出典：

III 結果の考察

本実践の成果は3点にまとめられる。第一に、SDGsを課題研究の総合的なテーマとすることによって、生徒の研究に文理融合型の研究の展開がみられた…